

2月29日

雪降る中で大宣伝

2月29日の東京地裁前、湿った雪が降りしき中、支援者と原告団合わせて102名が結集。地裁前での宣伝・要請行動を行い、約1万筆の要請署名を提出しました(累計提出数は約12万8千筆)。マイク宣伝では女性団体が中心に！ 以下当日の訴えを紹介します。



航空労働者の連帯感じる 日本教職員組合 米田さん

最近、多くの学校が修学旅行に航空機を使います。先日、JAL 不当解雇撤回のバッジをつけて全日空に乗ったら、乗員の方が後で、B787 のシールをくださいました。航空労働者の連帯を感じました。公務員の賃金を安定させ一緒に全力で頑張りましょう。

女性の地位向上めざして 新日本婦人の会 児玉さん

今日は2000人分の署名を持参しました。この不当解雇から1年が経ち、どんなに不法で不当なものが鮮明になった。私たち女性の地位向上のため

に日々闘っているが、一日も早く職場復帰をされるように運動しましょう。



安全は何物にもまさる 全労連女性部副部長 水谷さん

稲盛会長の『利益なくして安全なし』の記事を見た時、なにかの間違いではないかと何度も見直した。安全運航は何にもまさる旅客サービスであり、航空会社の誇りが感じられない。真面目に働いている労働者が、職を追われるのはおかしい。年金の問題でも資生堂アンフィニの雇用問題でも、全労連は全力で闘います。(左の写真が水谷さん)

職場の人も勝ってほしいと願っている 婦団連事務局長 榎本さん

2月17日の池袋の街宣も雪だった。その時一人の女性が近づいて「がんばってください」と声をかけてくれた。聞くと夫がJALで働いているということ。職場で頑張っている人たちは、原告に勝ってほしいと願っていることがわかった。人間の尊厳を踏みにじる不当な解雇は許せません。(右の写真が榎本さん)



安全の層が薄くなっているはいけない 客室原告 加藤浩子さん

御巣鷹山事故の時、私たち原告のほとんどはフライトしていました。その時誰もが絶対安全を誓ったはずですが、今の職場はそれを知っている私たちベテランがいなくなったことで、安全の層は薄くなっています。これでは、筋肉質どころか骨粗しょう症です。植木新社長は経営トップとして、今こそ安全について声をあげるべきです。真剣にJALの再生を考えるのなら、早期自主解決すべきです。これでこそ新生JALのイメージアップに繋がるものと確信します。(左の写真が加藤さん)

受けた支援は支援で返す 国労千葉地方本部書記長 坂口さん

このJALの解雇は国民の利益に与っているだろうか。国鉄では1,047名が解雇され最後は政治決着ということになった。私たち今、交通弱者のため地域で奮闘している。解雇に正当なものはない！働くものの尊厳を守るための24年間の闘いで受けた支援を、そっくり原告の皆さんに支援の形でお返しをしていく。(右の写真が坂口さん)



安全・安心求め日航本社前でも宣伝

16:30からは場所を移して日航本社前に。81名が参加し、不当解雇を糾弾するとともに、勝利判決の獲得、早期職場復帰、安全で明るい日本航空をめざして宣伝行動を行いました。以下、訴えに立った方々の発言を紹介します。

全労連 大黒議長：大変重要な局面を迎えつつあります。署名はまだ集めていく。LCC元年と言われているが、そのLCCさえ安全第一とコメントしている。何としても公正中立な判決を示されるよう、働きかけていく。



なかまユニオン 山本さん：JALは有能で深い見識を持つ人達を不当に解雇した。同じ品川区で働く者として非常に不愉快。経験がある人材がいなくなるのは企業にとって大いなる損失である。

品川労協 柴山事務局長：運動の広がりを実感します。29と30日は裁判所より断罪され、皆さんが職場に戻るであろうと確信します。しかし、裁判所の判断に間違いがないとは残念ながら言い切れません。多くの国民の声をバックに判決を出させることが必要です。

NTT 関連労組 江尻さん：今資本は闘う労働組合の排除にやっきになっている。そのためどの現場も不安に満ち溢れているのが現状。生活と権利を守るために闘っている原告団に深い敬意を表します。



乗員原告 近村さん：3月29、30日は判決日。裁判で明らかになったことは、整理解雇の4要件を全く充たしていないこと。私達は判決にかかわらず、必ず勝つ。訓練と経験がなければ安全は保てない。首切り自由の社会にしてはならない。



早期全面解決! 早期職場復帰! 安全で明るいJALを!